

新幹線プレス

2015年2月24日 No.212

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

2015春闘を勝利しよう！JR関連会社の労働条件を改善しよう！ SEK・SMTに団体交渉を申し入れ！！

私たち新幹線地本は昨日2月23日、SEKとSMTに対して、それぞれ『労働条件の改善を求める団体交渉の申し入れ』を行いました。

今春闘は政府主導の「官製春闘」などと揶揄されています。賃上げ獲得にとどまらず、出向先で働く仲間たちの労働条件改善のための闘いも重要です。

SEKの諸手当改善を！！

SEKは、JR社員と同様な仕事をしつつ、むしろ特殊な技術力が必要な会社です。しかし、仕事に見合った賃金と諸手当になっているのでしょうか。これは、JR東海との契約料が安いからです。JR東海は、今年度最高益を上げています。私たちJR東海労も関連会社の契約料を上げろと主張します。さらに、JRでは、車両データ活用による検修体制の見直しや検査周期延伸など大規模な効率化がなされようとしています。当然、SEK社員にも労働強化として、そのしわ寄せがきます。共に効率化反対の声を上げなければなりません。

SMT要員確保のために快適な労働環境の構築を！！

SMTの労働条件は一昨年のダイヤ改正以降の事業所の再編、統合によって前にも増して厳しいものになっています。作業の徹底したマニュアル化と監視、労災・安全対策を口実にした責任追及、「声掛け」なる社員相互の指摘し合いの強要など、労働条件は悪くなる一方です。「喚呼の声が小さい」「止まる場所が違う」など、本来の主旨から逸脱して社員管理に捻じ曲げられています。社員は疲れ切っています。このような現状を改善しない限り、安全で快適な職場は構築できません。

また、社員の定着率は依然として良くなっていません。新規採用をしたそばから退職するケースが後を絶たず、焼け石に水状態です。慢性的な要員不足に加えて年休が思うように入らない、突発休や休日勤務の常態化など疲労は増す一方です。これらの無策の被害者は社員です。職場の労働条件が劣悪であるからこそ定着しないのです。そのことにメスを入れない限り定着率は決して良くなりません。

SMTは、3月ダイヤ改正から現在の夜勤早番出勤を30分早くして、拘束時間を延長するという提案をSMT労組にしたようです。これは日勤の超勤を削り、夜勤者に肩代わりさせるものです。会社からの労働条件変更の提案には、私たちJR東海労は夜勤早番出勤30分繰り上げの撤回か30分を超勤扱いとするよう要求します。労使対等の原則を基礎に提案を丸呑みするのではなく、労働組合として毅然と対応すべきと強く訴えます。